

「肉用牛と酪農のハイブリッド経営を目指して！」



平田 伝之 (39 歳)
(西予市)

新規参入

1 就農の動機・理由

就農前は J A で畜産を担当しており、畜産農家と関わる中で自分でもやりたいという思いが大きくなった。

実家では搾乳牛を飼育しているが、西日本豪雨による被災と父の病氣療養が重なり、母一人で飼育を続けていくことが難しくなった。小さい頃から慣れ親しんだ牛に関わる仕事がしたい、高齢になってきた両親を手伝いたいという気持ちもあり、両親のそばで就農を決意した。

コンバインハーベスター 1 台
ブームスプレーヤ 1 台
ボブキャット 1 台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男 1 人(本人)	男 1 人(本人)	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)
経営耕地	牛舎 1 棟	牛舎 1 棟	牛舎 1 棟 水田 1.0ha 畑 1.5ha
経営内容	繁殖和牛 5 頭	繁殖和牛 11 頭	繁殖和牛 15 頭 搾乳牛 15 頭

○農業用施設

牛舎 40 m²
堆肥舎 50 m²
サイロ 1 棟

○主要農業機械

軽トラック 1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県西予市野村町
職歴 J A ひがしうわ
畜産部畜産課
就農年月 令和元年5月

(2) 就農時の思い

元々、動物に触れることが好きだったため、生き物(牛)に関わること自体への不安はなかった。しかし、就農し、初めて牛の病気や出産などへの対応を自分のこととして経験してみると、思っていたよりも大変なことが多かった。両親が側で支えてくれたことで乗り越えられ、感謝している。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

肥育方法や管理の注意点、経営者としての心構えなど、父や前職での経験から得たものが多い。

J A 部会の研修会にも積極的に出席しているほか、週に1回、地元の若手畜産農家同士が顔を合わせる機会をつくり、情報交換している。

(2) 資金の準備

J A 農業おまかせ資金を和牛の導入に利用したほか、次世代人材投資資金

を活用し経営を開始した。

(3) 農地・住宅の確保

地元での就農であり、農地や牛舎等の施設（リース）及び住宅の確保はスムーズにできた。

(4) その他苦労したこと

和牛相場は乱高下が激しく、安定した収入計画を立てにくい中、飼料や資材が高騰しており、資金の調達に苦労した。また、新型コロナによる行動制限で獣医が他地域から来られない時期は、特に牛の体調管理に碎身した。

5 農業経営の特徴

繁殖和牛を中心とした経営で、粗飼料として給餌している稲わらについては品質にこだわり、自給したものを使用している。JA繁殖和牛部会や酪農青年部会等各組織にも加入し、研修会などの企画運営に携わっている。また、同業者とのつながりを大事にしており、常に情報収集や意見交換に力を入れている。

6 これからの夢

将来的には父の経営も受け継ぐつもりであり、飼育頭数を増やし、繁殖和牛と搾乳牛の2本柱で安定した経営を確立したいと考えている。『ミルクの町』野村町の畜産業がなくなってしまうよう、自分ができることに精一杯取り組みたい。

また、自分の働く姿を見て「畜産いいな、カッコいいな」と思ってもらい、畜産を志す人が増えてほしいと思っている。

7 成功したキーポイント

技術面や設備面については、両親のサポートや前職での経験があったことが大きいと思う。しかし、周囲に同世代の農業者仲間が多いことが、成功の一番のキ

ーポイントだと感じている。積極的な情報交換ができ、互いに助け合える環境こそが最も重要ではないか。

8 就農を目指す方へのアドバイス

とにかく「やればやるだけ結果がってくる世界」だと感じています。時間の使い方や経営方針など全て自分の判断次第です。当然、責任も伴いますが、それ故に仕事を成し遂げたときの感動はひとしおです。新しい仲間を待っています。特に若い方には挑戦してほしいです。ぜひ一緒に農業を盛り上げましょう！

○ 指導機関からのひとこと

平田さんは部会の研修会などにも積極的に参加し、学んだ知識を活かして経営に取り組みられています。明るく若手農業者のリーダー的存在で、様々なことに挑戦する姿勢は周りにも良い刺激を与えており、今後も地域の担い手としてご活躍されることを期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室
西予農業指導班
電話番号 0894-62-0407



繁殖和牛

餌やり作業